

福島第一原子力発電所の状況

平成 25 年 5 月 29 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (5/29 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉圧力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系: 約 1.9 m ³ /h	25.0	107.1 kPa abs	A系: 0.03 vol%
		給水系: 約 2.4 m ³ /h			B系: 0.04 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系: 約 3.6 m ³ /h	38.1	6.24 kPa g	A系: 0.06 vol%
		給水系: 約 2.0 m ³ /h			B系: 0.05 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系: 約 3.6 m ³ /h	36.1	0.26 kPa g	A系: 0.13 Vol%
		給水系: 約 2.0 m ³ /h			B系: 0.12 vol%

*: 絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (5/29 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	23.5
2号機	循環冷却システム	運転中	27.4
3号機	循環冷却システム	運転中	19.9
4号機	循環冷却システム	運転中	28

各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘヒドラジンの注入を適宜実施。

[6号機]・H25/5/20 ~ 使用済燃料プール内に設置されている使用済燃料ラックの点検を開始。

その後、5/23 15:10 頃 当社社員が当該ラック点検記録ビデオの確認中に、使用済燃料プール東側底部に異物(アイナット*のようなもの)を発見。今後、異物の回収等を行う予定。

H25/5/28 16:50 当該異物(アイナット1個)を回収。SFP冷却浄化系運転状態、SFP温度、水位に異常はない。

*重量のある機械をクレーンでつり上げる際、ワイヤー等を接続する環状の金具

[2号機]・H25/5/27 6:32 ~ 5/29 10:34 計器の定期点検に伴い、使用済燃料プール代替冷却系を停止。なお、プール水温は冷却停止時の 21.4 から 27.3 まで上昇したが、運転上の制限値 65 に対して余裕があり、使用済燃料プール水温管理上問題ない。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	3号機タービン建屋地下	5/28 13:44 ~ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容 処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	5/15 17:20 ~ 移送実施中

・H25/1/28 東北地方太平洋沖地震により、建屋および屋外トレンチが浸水している5・6号機について、建屋内の水位上昇を抑制するため、建屋内滞留水の移送を継続しているが、更なる安全性向上に資することを目的として、非常用ガス処理系*1の屋外トレンチから仮設タンクへの滞留水の移送を開始。

*1 原子炉建屋内の空気を高性能のフィルターで浄化して排気筒より放出する系統で、(A)、(B)の2系列ある。

< 4 . 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (5/29 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて 断続運転	水バランスをみて 断続運転

* フィルタの洗浄を適宜実施。

・H23/6/8 ~ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

・H25/3/30 9:56 ~ 多核種除去設備(ALPS)の3系統(A~C)のうちA系統において、水処理設備で処理した廃液を用いた試験(ホット試験)を開始。

< 5 . その他 >

・H23/10/7 ~ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。

・H24/4/25 ~ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。

・H25/1/8 ~ 4号機燃料取り出し用カバーのクレーン支持用架構および燃料取扱機支持用架構の鉄骨建方を開始。

・H25/5/28 14:30 頃、正門外側(発電所敷地内)の駐車場でのコンクリートポンプ車の月例点検において、アウトリガー*(転倒防止用装置)の圧力計器チューブから、制御油が漏れいしていることについて、協力企業作業員から当社社員に連絡。直ちに当該コンクリートポンプ車のエンジンを停止し、油の漏れいが停止していることを確認。漏れいした油はペール缶(小型のドラム缶であり、容量 18~20 リットル程度の取っ手付きのもの)で受けており、缶で受けた量が約 18 リットル、地面に漏れいした量が約 2 リットルの合計約 20 リットルと推定しており、拭き取りなどによる回収を実施。現場はアスファルト上であるため土壌への浸透はなく、海までの距離が離れていることから、海洋への流出もないと考えている。漏れいの原因については、今後調査していく。なお、5/29 1:57 頃に消防へ連絡し、現場確認が実施され、同日 3:10 に漏れいが停止していることを消防にて確認。

* クレーン車などの重機などにおいて、アームを伸ばす際や物を吊り上げる際に、車体横に張り出して接地することで、車体を安定させる装置。

【地下貯水槽からの漏れいに関する情報および作業実績】

< 地下貯水槽に貯水している水移送実績 >

5/21 10:19 ~ 5/23 16:02 地下貯水槽 No.6 から G6 タンクへの移送を実施。なお、地下貯水槽 No.3 および No.6 から G6 タンクへの移送については、共通の移送ラインを使用することから、交互に切り替えて移送を実施することとしており、地下貯水槽 No.3 から G6 エリアへの移送については、5/25 に再開予定。

5/25 10:25 ~ 5/28 9:05 地下貯水槽 No.3 から G6 タンクへの移送を実施。

5/28 9:54 ~ 地下貯水槽 No.6 から G6 タンクへの移送を開始。

< 拡散防止対策 >

5/28 地下貯水槽 No.1 ~ 3 の漏れい検知孔内に漏れいした水および地下貯水槽 No.2 のドレン孔に漏れいした水をノッチタンクへ移送する処置を実施。

< サンプルング実績 >

5/28 地下貯水槽 No.1 ~ 7 のドレン孔水(14 箇所)、地下貯水槽 No.1 ~ 4, 6 の漏れい検知孔水(10 箇所のうち 2 箇所は試料採取不可)、地下貯水槽観測孔(22 箇所)、地下バイパス調査孔 a~c(3 箇所のうち 1 箇所は試料採取不可)、地下バイパス揚水井 1~4、海側観測孔 ~ についてサンプルングを実施。分析の結果、前回(地下バイパス調査孔 a~c、地下バイパス揚水井 1~4、海側観測孔 ~ :5/21、その他:5/27)実施したサンプルングの分析結果と比較して大きな変動は確認されていない。また、5/20 から 5/21 にかけて採取した、地下水バイパス(調査孔 a~c、揚水井 1~4、調査孔は 3 箇所のうち 1 箇所は試料採取不可)、および海側観測孔 ~ の水についてトリチウムの分析を実施した結果、前回の分析結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上